

■部マネジメント改革総括表

平成18年度

区分	基本方針	具体的取組	説明
総務部	<p>組織はつまるところ人であり、組織の使命「市民福祉の向上」に応えるためには、職員を信頼し、職員の能力を引き出し、育み、発揮させることに努めなければならない。</p> <p>そこで、職員が意欲を持って使命達成に力を発揮できるよう、各人の健康づくりと、職場の環境づくりに努める。</p> <p>また、地方分権と高度情報化が進展する一方、少子高齢化による課題や財政危機等を克服するため、行政経営に新たな視点、新たな価値観が求められている。このため、改革的思考に立って、現状を突破していく職員の気概を高めることに努める。</p>	① さわやか「5S」	5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)運動に取り組むことによって、働きやすい職場環境を整え、事務の効率を高め、市民サービスと行政内連携強化を図る。
		② 活き活き「ほうれんそう」	報告、連絡、相談を組織の基本方針として確立し、仕事を通して人を育て、進行管理を日常化し、さらには気づきの幅を広げリスク管理の向上を図る。
		③ 常に「イノベーション」・・・日に新に、日々新に、また日に新なり・・・	職員に常に生生発展の意識付けを行うことによって、職員自らの成長とともに、時代の要請に即応した仕事の創意工夫改革に努め、市民福祉の向上に資する。
		④ 職場の健康保持	職員の体調管理と、コミュニケーションによる豊かな人間関係づくりを進めることによって、職場の健康を確保し、質の高いサービスの提供を目指す。
		⑤ 流動的な組織運営	部内職員の事務量を平準化するため、部の資源である職員を所属の枠を越えて部内、課内で弾力的に活用する組織を目指す。
企画部	<p>顧客(市民)満足度の最大化を目指して、『ゼロベースからのスタート』=「伝・創・改・除」をキーワードに選択と集中による戦略的な行政経営の実践」を本年度の企画部基本方針に掲げるものとする。</p> <p>(「伝・創・改・除」・・・伝え残すべきもの、新しく創り上げるべきもの、改めるべきもの、取り除くべきものについて職員一人ひとりが主体的に判断すること。)</p>	① 本音deトークの開催	ビジョンの共有化を目指して市長との政策検討会議を毎月定例的に開催する。
		② 「じゃろ会」議の開催	先入観を持つことなく、部内のゼロベースからの白熱した議論により政策形成を図る。
		③ 「足を運びま主」義の実践	現場に足を運び自分の五感で確かめ、考える。
市民生活部 ・ 環境森林部	<p>ハートで対応、明るい職場</p>	① 市民満足度の向上のため〔住民の身になって〕ハートで対応	市民生活部・環境森林部は市民サービスの最前線。説明等はカタカナ語・専門語等を避けて、市民に分りやすく、かつ丁寧な心を込めて対応する。
		② 改革の流れを共有〔情報の共有〕	部会議で政策ミッションの進行状況を確認しながら、市全体の改革の流れも各課の職員に伝え、全員で熟知共有することにより、住民サービスを向上を図る。
		③ 職場改善の推進〔職員提案を活用した活性化への取り組み〕	日常業務の課題や問題意識に根ざした改善提案制度を創設する。提案は、部会議に諮り実施決定し、庁内ランで公表し内容を職員間で共有する仕組みを構築する。
		④ 研修等への積極的な参加	研修への積極的な参加を推進する。多忙時に受講できる仕組みを構築する。
健康福祉部	<p>健康福祉部は市民の方々と直接接する部署であるため多くの窓口業務を擁している。このため、常に市民本位の目線で考え、行動する(接する)事を実践するものとする。また、事務事業の実施については、常にコストを意識し工夫・改善に取り組むものとする。</p>	① 4C(Cost Creative Change Challenge)の実践	業務遂行の上では常にコスト意識を持ち、事務事業の施行・処理に創意・工夫や発想の転換を行い、事務事業の効率化・改善に挑戦する気持ちをもつ。※現在取り組んでいる5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)運動については継続するもの。
		② 職場から「あしたがない」の追放	「あ」…現状に胡座をかくな。安住・安泰を決め込むな。危機意識を持って。「し」…柵(シガラム)を捨てよ。時として柵は柔軟な発想に邪魔になる。「た」…他力本願は言語道断。自ら努力せよ。「が」…頑固な考えは止めよ。頑固は意地や面子、体面の繕いの裏返し。「な」…ナイナイを言うなかれ。予算がない、人手がない、補助がないを言うな知恵を出せ。「い」…威張るなかれ。権威主義は反発を招くだけ。謙虚な態度に徹せよ。以上の「あしたがない」を追放する事を職員の心得とする。

区分	基本方針	具体的取組	説明
農政部 ・ 商工部	農政部・商工部においては、職種性から専門的な技術、知識を有した人材の育成と、その分野における友好な人間関係の構築が求められる。従って、職員の資質の向上及び職員一体となった融和、連携策を講じ職員の意識改革と部内の活性化を図る。そのことにより、行政(市民)サービスの向上を目指す。	① 職員パワーアップ作戦	研修参加要請、委員、プロジェクト派遣依頼等は積極的に対応するとともに、自主的参加を奨励し、職員のやる気、本気を引き出し職員の資質の向上並びに活性化を目指す。
		② 思いやりの心で市民対応	市民を対象とした事業説明会、窓口対応においては、専門用語、法律用語の多用を控え、市民の立場に立ち分かりやすく説明するという意識の改革を目指す。
		③ 農政部は一体!「農政部いきいき会議」 商工部は一体!「商工部いきいき会議」	調整担当と各課との連絡体制の確立・部内業務の円滑な執行を図るため、関係課に配置している「部連絡員」との更なる連携の強化、情報の共有化を進め、部内で抱える課題の解決を図る。
土木部	仕事に対する意識を高めるため、担当ごとに目標を設定し自己啓発を図る。また、部内の事務点検を行い、課の統廃合も視野に入れた効率的事務運営を行う。	① 『Try Boo 土木!』担当ごとの目標達成 「Boo=Best of oneself」の略	土木部の職員一人ひとりが、常に最高の自分(Boo)に挑戦(Try)する。担当ごとに目標を設定し、達成に向けて一人ひとりが自分に挑み、年度末に担当ごとに成果報告を行う。
		② 効率的な部内体制の確立	事務調査等を実施し、部内の統廃合を実施。公共工事の検査体制の充実を図る。
水道局	水道事業を通じ、市民から「信頼され、親しまれ、喜ばれる人」を求められる企業職員として、自己成長する職員、アカウンタビリティを果たす職員、チャレンジする職員の養成を目指していく。	① 研修参加への要請及び支援	職場研修、職場外研修、自己啓発のための研修により職務遂行能力が付き、人間関係の構築、仕事上のクレームに対応できる能力を身に付ける。
教育委員会	市民の教育・学習ニーズを掌握し、それに応じたサービスの向上を目指す。また、教育委員会の各課が密に連携しながら、情報(行事、広報した内容等)を共有できるシステムを構築する。	① 教育委員会事業評価の実施	教育委員会事業評価表により施策(教育・生涯学習)に対する市民の声をすいあげ、市民のニーズに対応した施策を展開する。
		② 情報共有システムの構築	市民からの問い合わせ等に対応できるように、教育委員会全体の行事予定・広報した事案について情報の共有を図る。
消防局	職員及び組織の活性化を促進し、消防体制の充実を図る。	① 組織体制の検討	職員の士気の高揚を図り、安全管理体制の確立及び指揮命令系統、責任体制の明確化を目指して、三部制システム等組織体制についての検討を行う。
		② 研修復命の有効実施	シンポジウムや講習会に参加した人が、職員に対し復命を有効に行えるような環境を整備する。